

特集：キャリア支援

就職活動を終了した修士2年生から生物学類生へのメッセージ

赤星 渚（人間総合科学研究科、免疫学研究室、ブライダル業界、接客）

①就職活動を終えての感想

最初は何から始めていいものか全くわからず戸惑ったが、途中から自分とは全く異なるバックグラウンドを持った人達と出会う機会として捉え、自分なりに楽しむよう心掛けていた。そうすることで気が滅入るのを防ぐこともできていたと思う。

また、就職活動を通して以前より視野が広がり、自分の人生やあり方について振り返る良い機会になったと感じている。どれ程多くの人々が関わって世の中が成り立っているかを学ぶこともでき、社会勉強にも繋がった。

②就職活動前に普段から心がけておくべき準備

（就職活動を終えて活動前にやっておけば良かったと思うこと/いつの時期に何をすれば良かったと思うか?）

私自身は就職活動を始めるまで自分の将来や夢について深く考えることが少なかったためもっと普段から考えていれば良かったと感じた。これまでの自分の人生を振り返り、「自分は何がしたいのか。どういったことが好きなのか。」を考えてみると自分の行動や思考に意外な共通点が見つかることもあり、それが将来の職業に繋がる事もあると思う。

③生物学類の教育（遍く生物学教育）を受けた学生が受け入れられやすい業界および職種、または、受け入れられにくい業界および職種に対する考え。

生物学類は就職活動にあまり有利でないとされがちで、不安を感じる人もいると思う。ただ、就職活動の際は専門職でない限り学生に専門知識や技能を強く求めている会社は少なく、それよりも物の考え方が重視されているような印象を受けた。私は就職活動の途中から生物学とは全く関係のない業界を志望するようになり、「なぜブライダル業界なのか」と面接で聞かれることが多かったが、自分の夢や仕事に対する想いをありのままに伝えれば異種業界でも受け入れられないことはないと感じた。

④就職活動中にとった戦略について

（ES、筆記試験、面接。さらに、生物学類での教育がどのように生かされたかなどあれば可。）

就職活動中はESや面接に向けて自己分析を続けた。一度結論を出して満足するのではなく、就職活動の中で新たな発見があって自分自身の考えが変わることもあるので、常に自己に対する理解を続けることを心掛けた。これは就職活動に限らず今後も自分の目指す方向を考える上で継続していくべきだと感じている。

また、自己分析だけでなく周囲の人から見た自分について知ることでも大きな発見がある。少し恥ずかしい気持ちはあるが、身近な友達や親などに自分がどう映っているか聞いてみると自己理解がさらに進むと思う。

ESは就活生同士で評価し合うだけでなく、社会人にも見てもらうと学生とはまた違う視点での指摘をいただけると思う。また、社会人の方の話を伺うことで様々な物の見方を知ることのできるため、私はできるだけ多くの社会人や内定者に仕事や就職活動の話を聴くようにしていた。

生物学類で学んだことの内、目標を設定して達成までのプロセスを吟味し、実行していくという考え方や経験が就職活動の中で生かされたのではないかなと思う。

⑤生物学類教育に望むこと

生物学類は例年大学院に進学する人の割合が多く、自分の将来についてあまり向き合う機会がなく進学してしまうこともあるように思う。そこで、学類時代にもう少しキャリアを考える機会を与えてもらえたらと考えた。私自身全く異なる業界に進む上で大学院に進んだことは後悔していないつもりではあるが、修士1年で就職活動を行うに当たり学類時代にも就職活動を経験して自分の視野を十分に広げておくべきだったと感じた。

⑥将来の抱負

私自身の将来の抱負は、「人を笑顔に、幸せにする」という夢を叶えることである。

Communicated by Jun-ichi Hayashi, Received December 2, 2011.